

『つながる にほんご』 活動の手引き

第1課

目標:簡単な自己紹介ができる。

簡単に家族紹介ができる。

【あたらしいことば】

- ◆ 「国」は、ブラジル、日本、中国の地図が載せてあります。世界地図などを準備して、学習者の国の名前も提示するといいでしょ。

【言いましょう】「リです」

- ◆ 「～年前に」となっていますが、学習者によっては最近来た人もいます。その場合は、「～前に」を使わずに、「今年」「8月に」など具体的にいつ来たか話すようにしてください。
例)8月に中国から来ました。

【言いましょう】「わたしの家族」

- ◆ 家族の写真(実物)を見ながら活動するといいでしょ。
参考:『ことば』の「家族」(p.71)に家族の呼称があります。
- ◆ 年齢については無理に言う練習をしなくてもいいです。

第2課

目標:好きな食べ物、スポーツなどを言うことができる。

【言いましょう】「朝ご飯」

- ◆ 朝ご飯を食べない人の場合は、昼ご飯、晩ご飯などについて話してもらいましょう。

【言いましょう】「スポーツ」

- ◆ スポーツがあまり好きではない人もいます。その場合は練習をしなくてもいいです。

【話しましょう】

- ◆ 朝ご飯を食べない人の場合は、昼ご飯、晩ご飯などについて話してもらいましょう。

【書きましょう】

- ◆ テーマは朝ご飯だけではなく、スポーツについて書いてもいいです。学習者に書きたいテーマを選んでもらいましょう。

第3課

目標:1日の生活を時間の流れに沿って言うことができる。

【言いましょう】

- ◆ 多文化交流プラザ・さかいの日本語教室に行くことを考えて話すようになっています。それぞれの日本語教室に置き換えて練習してみるといいでしょう。
- ◆ 時間は1分、2分など細かい言い方ではなく、5分、10分など区切りのいい時間で練習

しましょう。

参考:『ことば』の「時間」(p.73)に一覧があります。

【話しましょう】

- ◆ 会社、学校のほか、保育園や幼稚園の送迎、買い物など、学習者の状況に合わせて、1日の生活を話してみるといいでしょう。

第4課

目標:簡単な感想が言える。

特になし

第5課

目標:誘いを受けて、時間や会う場所を決めることができる。

相手の申し出を辞退することができる。

【本文(会話)】「塚まつり」

- ◆ ここでは会話を練習します。ボランティアが一人で読む際は、だれの発言かが明確になるように、話してください。会話をしている二人の顔のイラストを指したり、ボランティアが体の向きを変えたりして話すといいでしょう。声の調子を変えて話すと、よりわかりやすくなります。
- ◆ 棒読みをせず、実際の会話をするように話す練習をしましょう。

【本文(会話)】「お茶の時間」

- ◆ 6行目、「ミルクはいいです」の「いいです」は「OK」「good」の意味ではなく、「No thank you」「要りません」という意味です。

第6課

目標:場所の様子が描写できる。

物の特徴が言える。

【本文】「買い物(1)」

- ◆ 「本文」が長いので、8行目までと9行目からの二つに分けて練習してみてください。

【言いましょう】

- ◆ 学習者自身の買い物の話をします。できる学習者には「何」を買ったのかに加えて、「どんな」「何」(例 小さいかばん)を買ったのかも話してもらおうといいでしょう。

参考:『ことば』に「形容詞」の翻訳(p.80～p.85)があります。

【話しましょう】

- ◆ 近くのショッピングモールのチラシやフロアガイドの冊子などがあると、より話しやすくなります。

第7課

目標: 家族の仕事や性格、特技等を言うことができる。

【言いましょう】

- ◆ 家族の職業を話します。特に仕事をしていない、または、すでに、退職している場合は、「うちにいます」「退職しました」などの表現を教えてください(『ことば』に「無職」「定年」の翻訳(p.78～p.79)があります)。

参考: 『ことば』に「職業(仕事)」の翻訳(p.78～p.79)があります。

- ◆ 「家族」の範囲は、学習者、国によってさまざまです(例: 結婚前の家族、結婚後の家族等)。学習者が紹介したいという気持ちを尊重して、活動してください。